

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.56 2011年4月16日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

新しい劇団の顔の誕生

第40期・新人発表会

担当 護柔 ー

3月21日、3人の新人たちはとても緊張していましたが、無事に発表会を終え、笑顔が溢れました。新しい劇団の顔、誕生です。

発表会に向けた日程がスタートしたのは2月。新人独自の稽古日を水・金、週2回。担当は護柔と和田庸子。4月からの「演劇まつり」稽古開始までの短い期間だが、折角演劇に情熱を持って入ってきた新人たちの気持ちを大切にしたい、そんな思いでした。「鮠」に出演した上村健太郎、「黒と白のピエタ」で初舞台を踏んだ西川立洋と斉藤成郎、そして年末にインターネットをみて応募してきた大谷敏行、珍しく男性4人である。20代2人と、40代、60代。このメンバーでどんなことができるだろうか？ ひと月半の限られた時間で何ができるのだろうか？ しっかり課題を立てて、創る過程を共有しそれを観てもらおう発表にしたい。担当者としてそんな事を考えました。

「うすずみ太鼓」は心をひとつにしてリズムを合わせる快感がある。太鼓の魅力を伝えたかった。タイヤを相手に練習を始めたら一晩でリズムを覚えてくれた。残念ながら年配の大谷さんは手が痺れると辞退、西川君は仕事が忙しくなり稽古に参加することが困難

となった。担当の2人を入れて4人でやることになった。バンドのドラマーだった斉藤君と、地元大阪で祭りの太鼓を経験した上村君の2人は、三宅の「木遣り太鼓」にもチャレンジしてもらった。久々の太鼓の響きに劇団員も喜んでくれた。

「外郎売り」はよく滑舌の練習として用いられるが、今回は感情開放のためのテキストとして、かつ、即興演技も兼ねて、喜怒哀楽を自在に表現することを目標に何度も稽古を重ねた。「セリフ」がどんな言葉でも感情の表現はできるはずだ、演じている自分を制御するもう1人の自分を意識しようと二つの課題に挑戦した。数人から「面白かった」と評価の言葉を頂いた。演じた彼らもやって良かったと言う。機会があればまたやってみたい作品です。

小作品の上演、「教育」はニール・サイモンの『名医先生』の中のひとつ。当初、大谷と斉藤、上村と西川の2チームを設定したが、前述の通り西川君が困難となり急遽、私が出る羽目になった。娼婦の若い女役は久々に和田庸子が演じた。小さな作品と言えども演出が果たす役割の大きさを知る機会となった。そして喜劇の難しさも。この作品は1月に杉本孝司さんの演出で「座・高円寺」での上演を観劇した時に、登場人物の枠で決めたもの。さばけた考えの親父が息子に愛の神秘の手ほどきを受けさせる内容がオモシロいのだが、父親の微妙な心理の変化が観る者の笑いを誘う芝居である。短い稽古期間であったことが悔やまれる。練り直してまた何処かで演じたいレパである。

歴史に残る大災害のあと、計画停電などで稽古がつぶれたり、こんな時に芝居をやって良いのか？ 中止にした方が……との声もあったが、敢えて決行した。本気で色々考えたが、中止したら世の中ますます冷え込んでしまう、そんな想いで取り組んだ。準備した30席に座ってくれた人たちとともに、演劇の時間空間を創ることができました。文化の仲間の皆さま本当にありがとうございました。



新人発表会・外郎売り (写真:長坂クニヒロ 以下同)

緊張しまくりでした

—新人発表会を終えて

大谷 敏行

10代で俳優をころごし上京してから半世紀近く経ちました。劇団の分裂で20代後半で早々に挫折し、実業界に入りましたが、志止み難く50歳でまた舞台に立つ機会を得ました。焼けぼっくに火がついたようにそれから芸能プロダクション、シェークスピア専門劇団等を経験し、昨年末、縁あって京浜協同劇団にワラジを脱ぐことになりました。

齢も65歳を越えて、ちょっと勇気が必要でしたが、いい先輩方に出会えて、本当によかったと思います。そして早速、新人発表会というチャンスを与えてもらい、拙いながらも緊張しながらも、やり終えることができたこと、感謝、感謝です。自分としては、何年ぶりの舞台でしたが、今後の役者人生の新たなステップになるものと自負しているしだいです。

人生すべからく、勇気をもって行動すること、また、人との出会いが大切だなどつくづく思っているところです。

4月に入ってまた次の舞台が始まろうとしています。今回の経験を糧としてどういう芝居ができるのか、不安とともに楽しみにしています。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。



前明治座の公演を見に行った際にいちばん印象に残っていた「教育」という寸劇をやることになりました。太鼓も外郎売りも最初から楽しく稽古することができ

たのですが、「教育」に関しては、いざ自分が息子を演じるとなるとものすごい抵抗がありました。これは公演が終わってから気付いたことなのですが、抵抗を感じた理由として、息子と自分が似ていたからなのではないかと思いました。その証拠に、発表会には母親と兄が来てくれたのですが、2人から口をそろえて「あの役はぴったりだった」と言われ、くやしい思いをしました。とはいえ、その抵抗はしだいに薄れ、後半は護柔さんが発する独特のやわらかい空気のなかで、本当に楽しく稽古をすることができました。見に来てくださった方々、支えてくださった劇団員の方々、本当にありがとうございました。



太鼓にも挑戦

「あの役はぴったり」と言われた

斉藤 成郎

新人発表会の出し物として、和田さんや護柔さんが提案してくれた「太鼓」や「外郎売り」のほかに、以



新人3人と担当の護柔さん和田さん

これからも稽古に精進します

上村 健太郎

京浜協同劇団研究生の上村健太郎と申します。芝居の経験もほとんどないまま昨年のピエタに続き、新人発表会に出演機会を得ることができました。支えていただいた劇団の皆様ならびに文化の仲間の皆様には感謝しております。これからも稽古に精進し、自分の芸術性を高めていきたいと決意しております。

今後ともご指導ご鞭撻よろしく願いいたします。

横山茂さんを偲ぶ

真に奇跡の歌手でした

安達 元彦

昨年11月5日、横山茂さんが亡くなりました。84歳と9ヶ月の生涯でした。横山さんは、京浜協同劇団の催しに、'83.1月＝稽古場・音楽寄席、'94.10月＝旅人たちの祭り、'03.8月＝横山茂 生きること、うたうこと——平和を思う朗読の会(文化の仲間共催)と、3回出演。その美声と人柄を記憶されている向きも多いかと思えます。

'53.(27歳)8人の同世代の仲間たちと秋田で「民族歌舞団(当時)・わらび座」を創設(初代座長)。その母体には「海つばめ」(東京'51.～)「ポプラ座」(北海道'52.～)という文工隊活動がありました。今風にいえば、さしずめゲリラのストリート・アーティスト。ゲリラとは、人々を海として泳ぐ魚。戦後の混迷の中、人々の懐深く抱かれ、人々に心の糧を配達する地面を這いずる芸能集団。さらに横山さんには「帰還者楽団」('50.～)という前身があります。ソ連(当時)からの帰還者で結成され、ロシアの民俗芸能を主として全国的に披露して廻り、その意気のいい素朴な明るさは、飢えを共にする人々から熱狂的な歓迎を受け大きな話題を呼んだそうです。そういう経緯の末の「わらび座」。人々の心を芯から豊かにたくましくしていくには、人々の歴史の中で人々自身に育てられてきた伝統(民族歌舞)に根ざす必要を思っただけのことではなかったのでしょうか？

横山さんの芸能者としての出発は、前記ソ連の収容所でした。'26.岡山市生まれ。'45.5月、召集(19歳)。

同年8月初め、ソ満国境守備隊に配備。専ら逃避行。10日余で敗戦。9月、シベリアのラーゲリ(収容所)へ。望郷の念に苛まれながら、飢えと寒さと過酷な労働で、死者最多であったという冬が明けて'46.春、横山さんは初めて人前で歌をうたいます——「椰子の実」。安眠妨害？——とビクビクしながらうたい終わった横山さんの前に差し出されたのは黒パンの耳。囚人たちが死ぬときに一口齧って、と枕の下に隠しておいたものでした。命と引き換えの出演料！(こんな高額のギャラもらったタレントいるかナァ?)。つまり、横山さんは囚人たちによって産み育てられた歌手。これが横山さんの生涯を決定づけることになったようです。以後、抑留地での楽壇活動が始まっていきます。そして、'49.11月、帰国。

'72.「わらび座」退座(46歳)後、山梨県で薬局開業。いったんは舞台を捨てたつもりだった横山さんは、'80.(54歳)東京で歌手活動再開。「ヨコちゃんをこのまま埋めるのはあまりにももったいない」との、かつての座友・岡田京子の懇請を受けてでした。だが、2000年、アルツハイマー発病。でも、以後コンサート活動はますます旺盛になります。(発病前20年間で約30回。発病後7年間で70回以上)。横山さんの歌の世界は、以前に遥かに増して、深く広く大きく優しく、なんの予備知識も持たない広範な人々(小学生から超高齢者)の命のおののきを、芯から根から温め抱き揺さぶりつづけ、病んでなお初志を貫徹しきった、真に奇跡の歌手でした。(2011年3月31日記)



好評の田中兵庫、池上幸豊に続いて贈る、川崎郷土・市民劇 第3弾

ます がた じょう
枳形城

らくじつのまい
落日の舞い

作 小川信夫 上演台本・演出 ふじたあさや 制作 関昭三

日程 2011年5月6日(金)18:30 / 7日(土)14:00 / 8日(日)14:00 多摩市民館
 5月20日(金)18:30 / 21日(土)14:00 川崎市教育文化会館

入場料 大人 2500円(当日3000円) 学生以下 1000円

前売券取扱所 川崎市民劇場(川崎044-244-7481 溝口044-855-5916) / 川崎市文化財団(044-222-8821) / アートセンター(044-955-0107) / プラザ・ソル(044-874-8501) / ぐらす・かわさき(044-922-4917) / 京浜協同劇団(044-511-4951)

主催 川崎郷土・市民劇上演実行委員会(044-201-1413) (財)川崎市文化財団

共催 川崎市 川崎市教育委員会

こばやしひろしさんを偲んで

もっともっと教わりたかった

細田 寿郎

岐阜「劇団はぐるま」の、こばやしひろしさんが2月5日に逝ってしまった。

「日米安保条約自然承認」のすぐあと1963年にこばやしさんは「京浜協同劇団」の黒沢参吉、「名古屋演劇集団」の若尾文也、「静岡芸術劇場」山崎欣太さんたちと中心になって東日本リアリズム演劇会議を結成された。地域劇団の結集体であった。文化・芸術があまりにも中央に集中するなかで地方劇団の抵抗体の意味もあった。でも劇団を地方から発信するには住民の共感と支持が絶対的に必要となる。それは国家権力特に文化政策に対して真っ向から物申すことを避けては通れなくなる。地域に根ざす演劇は地域の要求に答える創作劇を生み出すことから始まる。こばやしさんは、その先頭に立った。「京浜」では“この日、この地で、この人々と”をスローガンに、黒沢の創作劇を中心に労働争議の支援、市政民主化の確認団体、街の祭りの企画、演出など多岐にわたって活動した。

「文化の仲間」のみなさんも、こばやしひろしさん

* * * * *

◎文化の仲間通信◎

◆川崎市民劇場第302回例会 劇団前進座公演

あなまどい

原作 乙川優三郎／脚本 金子満広／演出 橋本英治
／出演 嵐圭史・浜名実貴 ほか

日程 6月11日～14日

会場 幸市民館とエポック中原

34年間仇を追い続けた夫と帰りを待ち続けた妻。
その間、何を失い、何を得たのか……

問合せ 川崎事務所 044-244-7481
溝の口事務所 044-855-5916

◆神奈川芸術劇場オープニング記念

神奈川演劇連盟 in 神奈川芸術劇場

○八月のシャハラザード

日程 4月22日(金) 18:30
23日(土) 14:00/18:00
24日(日) 14:00

会場 神奈川芸術劇場 中スタジオ
入場料 前売1500円(当日2000円)
日時指定・全席自由

○～観よう！遊ぼう！たのしもう！～ あそびば

日程 4月29日(金・祝)～5月1日(日)
会場 神奈川芸術劇場 中スタジオ
入場料 1日券1000円(各イベント出入り自由)
京浜協同劇団も、30日11時から大道芸で参加します。

○黒船がやってきた

日程 5月7日(土) 14:00/18:00

を知る機会はあまりなかったと思う。「郡上の立百姓」の作者といえば知る人も多いかも知れない。この作品は岐阜市民の絶大な支持を受け、地域を乗り越え、映画となり、訪中新劇団のレパートリーとなった。「京浜」でも1993年、第53回公演として上演した。



こばやしさんと私のつながりは、「東り演」結成時から強くなった。黒沢議長、こばやし事務局長の下で事務局員として活動した。黒沢のロマンチズムとこばやしさんのペシミスティックの間で、労働運動と演劇の二股でやっていた私は、翻弄されながらも充実した毎日だった。そんなときにこばやしさんとあるミスマッチ事件が起きた。この件はこの場で明らかにすることではないが、10年を経てこばやしさんが事実を知ることになった。その後の5年間、私の演出した舞台を観て下さった、その誠実さに心打たれた。この件が、今日私が演劇を続けている要因の一つである。

もっともっと教わりたかったのに残念である。

坊さんであったこばやしさんは、あの世でどうするのかわかりませんが、安らかに眠ってください。

8日(日) 14:00

会場 神奈川芸術劇場 ホール
入場料 2500円 高校生以下1500円
日時指定・全席自由

作・演出 横田和弘／振り付け カワイヒロコ／殺陣
土井宏晃／音楽 鈴木初音

出演 県内の加盟劇団から。京浜協同劇団からは3人が出演します。

△チケットのお申込みは京浜協同劇団まで

■文化の仲間ギャラリー■

小野寺 晃②

